

【静岡県立小山高等学校】

令和8年度 第1回 学校運営協議会兼学校関係者評価委員会（報告）

日時：令和8年4月20日（月）

午後1時30分～3時30分

会場：小山高等学校 第一応接室

1 開会（校長挨拶）

- ・委員1名欠席
- ・本年度の入学者数は全日制64名、定時制3名と減少傾向。一人ひとりの顔が見える丁寧な教育活動は可能であるが、活気ある活動の維持は困難になっていく。
- ・北駿地区公立高校の再編が進む中、小山高校は単独での存続が決定しており、いかに特色をだしていくかが課題である。
- ・昨年度の卒業生は、国公立大学への合格や公務員採用など非常に健闘しており、この実績を中学生にアピールしていきたい。

2 協議等

(1) 会長・副会長の選出

A委員を会長に選出。B委員を副会長に選出。承認

(2) 学校概要、学校経営計画について説明

スクールミッション、スクールポリシー、学校経営計画における本年度取組を説明

【全日制】小林副校長

- ・生徒数7クラス 男女比は約2：3（1年生は1：3）
- ・併置されている御殿場特別支援学校小山分校との共生共育を推進。
- ・昨年度の進路状況は、約6割が四年制大学に進学し、ここ数年はこの割合で定着。国公立は、お茶の水女子大学、宇都宮大学、静岡県立大学などに計9名が合格。私立大学では青山学院大学、明治大学、立教大学といった「MARCH」クラスの上位大学にも合格者が出ている。
- ・小山町との連携（高校生議会やインターンシップ、マラソンフェスタ等のボランティア活動、国際交流）
- ・クラス数減に伴う教職員数の減少により、業務の精選や部活動顧問の不足への対応が迫られている。

【定時制】櫻井教頭

- ・全生徒19名に対し教職員10名。手厚い指導体制で、全教員が全生徒を把握している。
- ・多くの進路行事を実施。キャリアミーティングを通じて地元企業との接点を持つなど、卒業後の就職・進学を丁寧に指導している。

3 授業見学（全日制・6時間目）

4 学校運営協議会及び学校関係者評価制度の説明

- ・「学校運営協議会」と兼ねる形で設置。学校、地域住民、保護者が力を合わせて学校運営に取り組むものであり、地域と一体となった特色ある学校づくりを進めることを目指す。
- ・関係者評価は次回（11月）に説明を実施し、最終的な評価は2月に実施。

5 学校経営計画についての意見・助言

【A委員】

Q1：1年生の男子生徒が非常に少ない現状で、団体種目の部活動が成立するのか。非常に厳しい状況ではないか。

A1：男子団体種目は非常に厳しい。看護医療系や保育系の指導に力を入れてきた取り組みが中学生に浸透した結果、女子の応募が多くなったと考えている。学校祭のチーム分けやクラス編成でも男子の少なさが支障となっている。男子生徒に訴えかけるような取組について御助言をいただけるとありがたい。

Q2：授業でタブレットの生徒と紙のノートの生徒というが、自由か。

A2：教員はデジタル配信とプリント配付の両方を行い、生徒が自分の得手不得手で選べるようにしている。「白紙の状態から書く力」など本来的な基礎学力が不安なので、育てていくことも意識しなければいけないと認識している。

Q3：大学入試で推薦枠の拡大や「努力した人が報われないのではないか」という世間の声もあるが、学校として学力の保障をどのように考えているか。

A3：推薦や総合選抜は決して「楽な手段」ではない。高校生活全体が評価対象となるため、早い段階から強い志望を持って努力する必要がある。また、第一志望の学校に進学することが多く、大学入学後も一生懸命頑張っている生徒の割合が多いという話もある。日頃から頑張っている生徒にとっては有効な手段ではないか。

【B委員】

- ・いつ来ても、生徒は非常に穏やかで真面目に過ごしているという印象。
- ・商工会の理事会でも、小山高校の動向は関心が高い。特に「グローバルな活動、地域貢献」については、好意的に捉えている地域の方々が多い。

Q1：総合型選抜入試への対策として、地域が協力して生徒に活動の場を提供したいと考えているが、具体的にどのように進めていったら良いか。

A1：基本的には教頭が窓口となるので、一度御連絡いただきたい。企画内容を伺っていく中で、役割やどのように取り組むか等対応を検討する。

生徒のアンケートの中でも「地域に貢献したい」という意見をよく聞くので、今後も地域と良い関係を築いていきたいと考えている。

【C委員】

- ・授業見学を通じて、生徒が「伸び伸びと」学習に取り組んでいると感じた。
- ・足柄地区の文化祭やお祭りなどの機会に、学校と一緒に活動できることを期待している。

【D委員】

- ・タブレットと紙の教科書の併用する今の学習スタイルは、生徒にとって学習しやすい選択肢があるという点で良いと思う。
- ・地域住民としては、弓道部、ダンス部、吹奏楽部が熱心に活躍している印象が強く、人数が減ってもこれらの活動が続くことを期待している。

【E委員】

Q1：クラス数が減り、特進クラスや志望進路に応じた指導体制はどのようになるか。

A1：「特進クラス」という形は取らないということを、クラス減が判明した時点で中学校へ説明をしている。選択授業や習熟度別の指導で、四年制大学や保育や看護など生徒の進路希望に応じたきめ細やかな進路指導体制を築き、一人一人に合わせた進路指導を行っている。

Q2：子どもが志望する大学にボランティア認定制度があるが、ボランティアの情報が少なく規定の回数を実施できない。学校でもボランティア活動の紹介を行っているか。

A2：学校が提供するイベント的な単発の活動だけでなく、自分の進路（介護や教育など）に関わる介護施設や学童保育などの施設に対して、生徒自身が直接お手伝いを打診してみるのも一つの有効な方法である。自ら訪ねてみることで、継続的な活動につながる可能性がある。

6 閉会・諸連絡

今後の予定

第2回 令和8年11月4日（水）、第3回 令和9年2月8日（月）を予定。

（変更の可能性有）